

下野市立薬師寺小学校

1 学校課題

主体的に表現し、伝え合う児童・生徒の育成

～関わり合いを通して、対話に必要な表現を身に付ける授業の創造を目指して～

2 研究計画

(1) 主題設定の理由

市の「小中一貫教育推進研究学校指定事業」を受け、「しもつけ未来学習」を基盤とし、英語学習を中心としたコミュニケーション能力の育成を目的として研究を進めている。本年度は、昨年度に引き続き、外国語科・外国語活動の時間を使って英語活動を中心としたコミュニケーション力の育成を目的として研究を進めていくこととした。研究の2年目として、昨年度の成果と課題を生かし、関わり合いの中で自分の思いや考えを豊かに表現する力を身に付けていくためのより効果的な方法を研究するとともに、他教科でのより充実した対話活動の研究も続けていくためにこの主題を設定した。

(2) 研究の仮説

児童が主体的に表現できるようになるためには、まず、対話に必要な表現を身に付ける必要がある。そのためには、単なる教え込みではなく、児童自らが話したい、聞きたいと思うような必要感のある活動や効果的な関わり合いの場を意図的に設定していくことが大切である。また、一人一人が思考したり考えを表現したりする時間を確保することや、英語で他教科の学びを生かしていくことが深い学びにつながっていくと考える。これらを通して、主体的に表現し、伝え合う力を高めることができると考える。

また、主体的に表現し、伝え合う児童を育成するために、学習過程の中に目的を明確にした対話活動を効果的に取り入れていくことで、学びの深まりを目指していく。また、教育専門家を招き、授業づくりについての研修を受けることで、指導力の向上を図ることができると考える。

3 研究内容

(1) 関わり合いを通して、対話に必要な表現を身に付ける授業を創造する。

- ア 関わり合う場の工夫（場面設定、目的・相手意識）
- イ 児童の興味・関心が高まる学習活動の設定や教具の工夫
- ウ 一人一人が思考したり、考えを表現したりする時間の確保
- エ 語句や表現に慣れ親しむための活動の工夫
- オ 身に付けるべき力を明確にした評価の工夫
- カ 深い学びにつなげるための他教科との関連



(2) 対話活動を充実させ、学びが深まる授業を創造する

- ア 目的を明確にした対話活動の充実
- イ 授業のゴールの明確化とその実現のための発問の吟味
- ウ 身に付けるべき力を明確にし、表現力を高めるために効果的な学習過程の工夫
- エ 教育専門家を招くことによる、教師の授業力の向上

(3) 小中一貫教育を意識した系統的な指導と実践。

ア 9年間を見通した学びの系統性を研究する。

イ 授業の振り返り、授業研究会の振り返り、研究の振り返りを充実させる。

(4) 研究授業を通した主題への取組

月日	学年	単元名	課題追求のための手立て等
9/8	3年	I like blue.	・「好きなもの」や「嫌いな物」について分かりやすく友達に伝える」活動に、目的意識をもって取り組ませる。 ・中間振り返りで、児童のうまくいかなかったことを取り上げたり、児童の気付きを共有したりして、その後のやり取りに生かす。
11/18	2年	Colors and shapes.	・国旗当てゲームを取り入れ、色や形、数字の英語表現に親しませる。 ・国旗当てゲームのヒントをグループで考えたり、他のグループの問題を答えたりする活動を通して、対話活動に積極的に取り組ませる。
12/21	5年	I'd like pizza.	・家族へのオリジナルピザを作るために、注文したり、注文を受けたりする活動を設定し、児童が目的意識をもって意欲的に対話活動に取り組めるようにする。 ・中間の振り返りで、児童が伝えたい表現を取り上げ、より表現を豊かにして、対話活動を積極的に行わせる。

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

① これまでは「言葉」の習得に意識が行きがちだったが、児童が伝えたい「内容」を意識させて対話活動を行わせた。児童が話したいと思う英語表現を引き出し、繰り返し使わせることで、語彙が増え、対話活動が少しずつ活発になることが分かった。

② 導入でのスモールトークが、児童の活動の理解や意欲付けに影響が大きいことが分かり、毎時間表現を工夫してきた。

③ 単元を通して、どのような対話活動をさせていきたいかを考えて授業を組み立てていくことにより、児童のコミュニケーション能力が伸びている。

④ 児童が楽しく活動できるような教材・教具を工夫し、準備することで、児童が興味をもって意欲的に活動に取り組むことができた。教具を準備する際には、研究ブロックを越えて、協力して作成する組織を運営することができた。

⑤ 低・中・高学年全て研究授業を行ったことで、学年間のつながりを意識しながら授業をすることができた。



(2) 研究の課題

① 研究授業で児童の様子を参観する際に、児童の活動の様子からどのように評価していくかについての話合いの時間を設定し、評価の仕方についても研修を深めていく。

② 授業研究会の後に、個人での振り返りの時間を設けてきた。今後は、振り返りの時間を研究ブロックごとに設け、成果や課題、今後の授業に生かしたいことなどをまとめ、より実践的に研究が深められるようにしていく。

